

社会見学で消防施設へ

9月19日、小学部4年生58名は、社会見学として、市内黄埔区にある消防施設、黄埔消防大隊を訪れました。この消防署は7年連続消防訓練大会で優秀な賞を受賞していると聞き、火災から市民を守るため、日々厳しい訓練に励んでいることが想像されました。子どもたちは、消防署で働く人たちがどんな仕事をしているのか、火事が起きてからの流れはどのようなものかなど、一学期に消防署の仕事について学習してから消防署を訪れました。当日は4つのグループに分かれ、消防車・はしご車への乗車体験、防火服体験、暗闇避難体験などを体験しました。

防火服は4年生にとって手足が出ないくらい大きなサイズで、5kg以上もある重いものでしたが、消防士気分がかっこよく放水ポーズを決めていました。火災を想定した避難体験は、真っ暗な中、手探りで避難経路を進むもので、暗闇での避難がいかに大変かを身をもって体験することができました。はしご車は残念ながら全員が体験することはできなかったのですが、20mくらいの高さまで上がり、怖がりながらも、高所に取り残された人の救助の様子を具体的に想像することができたようです。

活動を通してイメージがさらに膨らみ、「訓練は一日何回するのですか?」「電話がかかってきてから出勤するまで何分かかりますか?」「火事の原因は何が多いのですか?」など、次々と疑問・質問を投げかけていました。

また、日本の消防署に社会見学に行っていた児童も多く、「消防士の防火服の色が違う!」とか「消防車が日本で見たものよりも大きい!」など、中国の消防服や消防車、消防署との違いに驚いている児童もいました。このように社会に出て様々な公共施設を見学することは、社会のしくみを知るだけでなく、そこで働く人達への感謝の心を育てる大変すばらしい体験となっています。

これからもこうした社会見学を大切に捉え、施設や企業を見て学ぶ機会を積極的に設けていきたいと思います。

